

2016.3.22

医療教育開発センター ニューズレター

徳島大学大学院医歯薬学研究部
医療教育開発センター

1 巻頭言

2 医療教育開発 センターの役割

3 蔵本キャンパスでともに学ぶ ～基礎的・汎用的能力の育成～

1 巻頭言



医療教育開発センターの 役割と方向性

医療教育開発センター長 赤池 雅史

今回のニューズレターでは医療教育開発センターの役割を考える特集を組みました。当センターは平成16年に医学、栄養学、歯学、薬学の各研究科が統合され、現在の医歯薬学研究部が発足したことを契機に、組織横断的な医療教育支援組織として設置されました。その後の12年間は第1～2期中期目標・中期計画にあたり、組織横断的の大学院教育、シミュレーション教育、医療コミュニケーション教育を中心に、

高大連携～卒前～卒後・生涯教育を「縦軸」、専門職連携教育を「横軸」として、医療系3学部・5教育部のカリキュラム・アドミッションポリシーに基づいた生命科学研究者や高度医療人の育成支援に取り組んできました。

組織横断的の大学院教育としては、Tokushima Bioscience Retreat（平成17年度～）、クラスターコアセミナーやミニリトリート等の教育クラスター事業（平成21年度～）に取り組んできました。これらは参加者の満足度が非常に高い取組ですが、今後は全学的取組への発展や研究への貢献について検証が必要と考えられます。

専門職連携教育については、1年次合同ワークショップ「チーム医療入門」（平成19年度～）が正課として確立し、今後は教養教育の「医療基盤教育科目」、臨床実習準備教育としてプロブレムマッピングを活用した「学部連携 PBL チュートリアル」、学内・学外・地域での「チーム医療臨床実習」を充実させ、学年積み上げ式専門職連携教育の構築が必要と考えられます。

シミュレーション教育については、スキルスラボの利用が年々増加し、基本技能・汎用的能力～高度医療手技のトレーニング施設としてフル回転しています。医療コミュニケーション教育については、共通教育科目「ヒューマンコミュニケーション（保育所実習）」や医学科、保健学科（放射線技術科学、看護学）、歯学科、薬学部の模擬患者参加型教育への支援を進めてきました。当センターで育成した模擬患者の人数とその活動は年々増加しています。シミュレーション教育と模擬患者参加型教育については、今後はデブリーフィングを含めアクティブラーニングに対応した臨床技能教育指導法の開発と普及等、その質の向上が必要と考えられます。

医療教育開発センターは、教養教育院、総合教育センター等の全学組織、医療系学部・教育部ならびに徳島大学病院を繋ぐ「ハブ&ニッチ」的組織として、今後も医療教育の発展に尽くす所存です。皆様のご指導ならびにご支援を引き続きよろしくお願い致します。

医療系における組織・領域横断的大学院教育

Tokushima Bioscience Retreat

2005(平成17)年度～
医療系大学院生による研究発表
英語でのプレゼンテーション・討論
教員・大学院生(留学生含む)の交流

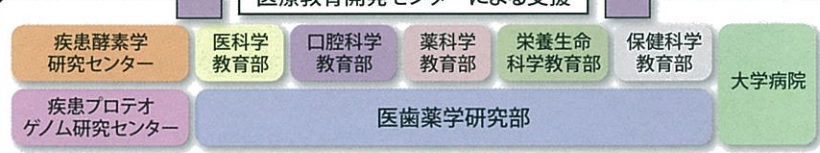


教育クラスター

2009(平成21)年度～
クラスターコアセミナー(選択科目2単位)
ミニリポート
国際共同研究(頭脳循環GP 2件採択)



医療教育開発センターによる支援



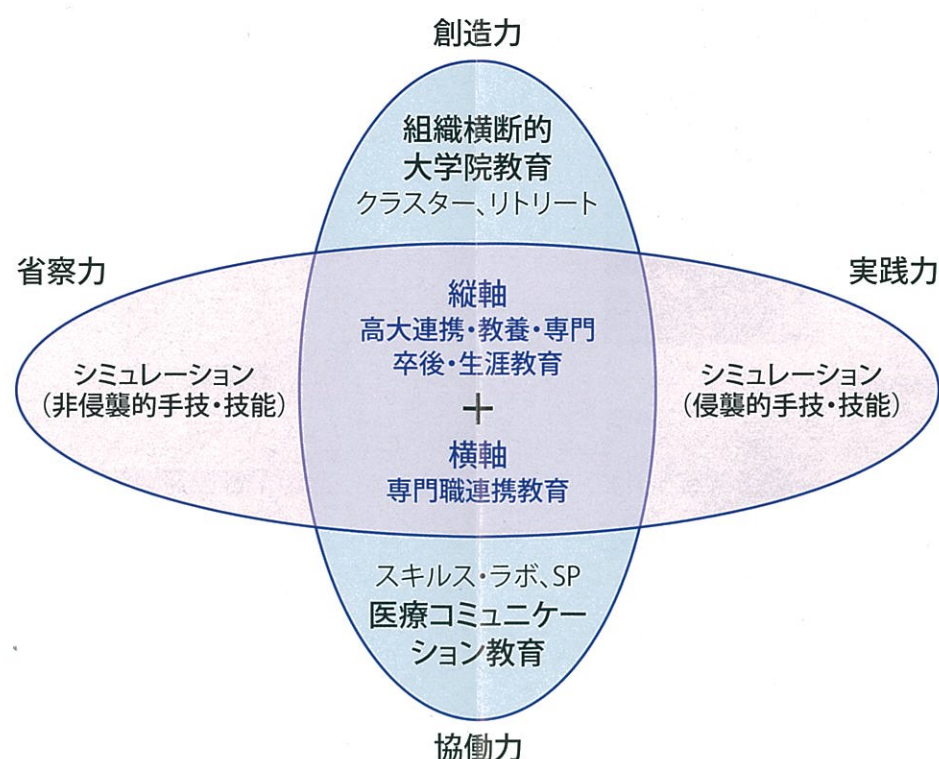
2015(平成27)年度ミニリポート
実施後アンケート 参加者の満足度は非常に高い

クラスターを基盤とした
研究実績



全学レベルへ発展、新しいコースワーク構築
共同研究への発展、研究成果の検証が必要

2 医療教育開発センターの役割

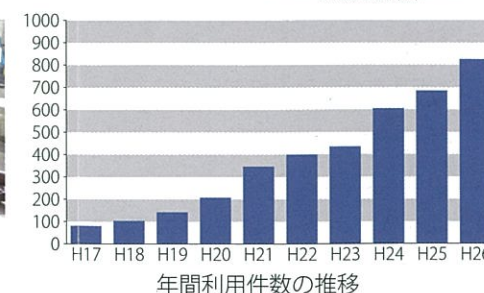
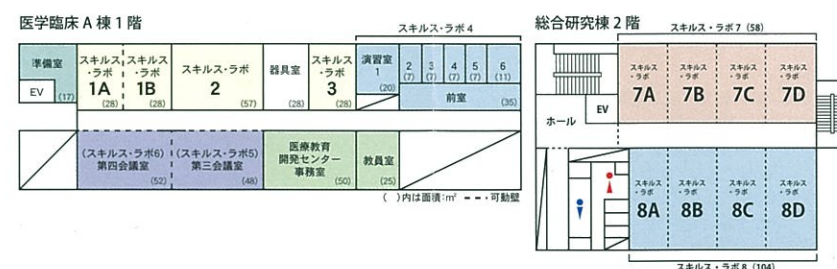


徳島大学スキルス・ラボ

- 2009(平成21)年5月に完成・移転
- 蔵本キャンパスの中央に位置(572m²)
- 基本～高度手技&シナリオ基盤トレーニングに対応
- インストラクター教員の配置
- 高大連携・卒前・卒後・地域でのシミュレーション教育の拠点

シミュレーション教育の推移

- 医療系学部・学科のCP/DPに合致した教育コンテンツの開発
- すべての医療職に必要な基本技能・汎用的能力の育成
- デブリーフィングを含めアクティブラーニングに対応した指導法の普及
- 高度低侵襲手術手技トレーニングプログラム開発(CALとの連携)



シミュレーション教育ニーズ増大への対応が急務

多職種連携教育

複数専門職の
共同学習

専門職連携教育 (IPE)
Interprofessional education

“共に学ぶ”

“お互いから学ぶ”

“お互いについて学ぶ”

初年次教養教育
「医療基盤教育」

連携

チーム医療入門

学部連携 PBL
チュートリアル

職種連携臨床実習
(学内・学外・地域)

新規構築

大学入門講座「チーム医療入門」蔵本地区区 1 年生合同ワークショップ

薬学GPをきっかけに2007(平成19)年度から開始
2011(平成23)年度より蔵本地区区全体に拡大し、2015(平成27)年度にはAP
事業(SIH道場)へ発展



学部連携PBLチュートリアル(トライアル実施)

高学年における専門職連携教育を
模索するトライアル実施

- 第1回 2014.3.25,26日
- 第2回 2015.3.24,26日
- 第3回 2016.2.16,19日



学年積み上げ式の専門職連携教育を目指して

医療系学部合同授業の企画・実施

2011(平成23)年度～

国際医療支援

プロフェッショナリズム

災害医療



医療安全

チーム医療・コラボレーション

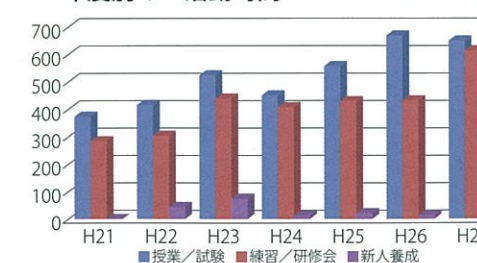
地域医療・在宅医療

コースワーク化が必要(医療基盤教育～専門教育)

模擬患者(SP)参加型
医療コミュニケーション教育

- 2002(平成14)年医学科で開始、他学部へ拡大・ニーズ増大
- 一般ボランティアをトレーニング、SPとして登録
- 医学科、保健学科(放射線技術科学、看護学)、歯学科、薬学部のコミュニケーション
実習・技能試験
- SP育成・派遣、教育コーディネーター、FD

年度別のべ活動時間(活動時間×活動人数)



医科栄養学科も実施予定
アウトカムと一体化した教材開発が必要

3 蔵本キャンパスでともに学ぶ～基礎的・汎用的能力の育成～

●2015 Tokushima Bioscience Retreat

日時：平成27年9月17日(木)～19日(土)

場所：香川県リゾートホテル
オリビアン小豆島

参加人数：学生32名、教員11名

特別講演

『Biology of Sleep : My Way to the Goal』

講師：木村 昌由美 先生

(マックスプランク精神医学研究所 研究コアユニットリーダー)



●第9回チーム医療入門 蔵本地区1年生合同WS2015 「在宅医療の困り事解決 - 私達はどこまで解決できるか」

医療人を目指す学生が相互理解を深め、将来ともに円滑なチーム医療を行える基盤形成を目的として、蔵本地区の1年生全員を対象として毎年行なわれています。

日時：平成27年9月30日(水)

13:00-17:00

場所：大塚講堂

参加人数：422名

演題：在宅医療入門

～家に帰るという選択肢～

講師：市橋 亮一 先生 (総合在宅医療クリニック 代表)



●第3回医療教育開発センター特別講演会

日時：平成27年9月30日(水)

19:00-20:30

場所：日亜メディカルホール

参加人数：46名

講師：市橋 亮一先生

(総合在宅医療クリニック 代表)

演題：多職種のための在宅医療へのアプローチ
～地域づくりを阻む5つの壁を乗り越えよう～



●第4回医療教育開発センター特別講演会(FD)

日時：平成27年12月9日(水)

19:30-21:00

場所：スキルス・ラボ5 & 6

参加人数：35名

講師：吉村 学 先生

(宮崎大学医学部地域医療・総合診療医学講座 教授)

演題：進化するごちゃまぜ多職種連携教育～流れを変えるには学生時代から～



●第7回Simulation医療教育特別講演会(FD)

日時：平成28年1月8日(金)

18:15-19:45

場所：スキルス・ラボ5 & 6

参加人数：教職員41名

講師：阿部 幸恵 先生

(東京医科大学病院シミュレーションセンター長・教授)

演題：学習者の思考をアクティブにするデブリーフィングのコツ



●第5回How to医療コミュニケーション教育(FD)

現在、医学科、保健学科、歯学科、薬学部で行われている模擬患者参加型教育の充実を目指して、模擬患者、教員がともに学び、意見交換を行いました。

日時：平成28年1月30日(金)

13:00-16:00

場所：スキルス・ラボ8

参加人数：教職員14名 模擬患者17名

演題：模擬患者参加型実習におけるファシリテーター

講師：吉田 登志子 先生(岡山大学 医療教育統合開発センター)

アドバイザー：伊東 こずえ (九州大学医療系統合教育研究センター)



●学会活動・論文●

第28回日本内視鏡外科学会総会(H27年12月10～12日 大阪)

『手術シミュレーションを利用した鏡視下手技が苦手な学生の同定とトレーニングの工夫』

岩田 貴^{1,2)}、島田光生¹⁾、吉川幸造¹⁾、東島 潤¹⁾、中尾寿宏¹⁾、西 正暁¹⁾、徳永拓哉¹⁾、高須千絵¹⁾、柏原秀也¹⁾、赤池雅史²⁾、徳島大学外科学¹⁾、大学院医歯薬学研究部医療教育開発センター²⁾

平成27年度大学教育カンファレンスin徳島(H28年1月6日)

『反転授業を応用したクリニカルクラークシップ学生対象の実習の試み』

岩田 貴^{1,2)}、赤池雅史²⁾、長宗雅美²⁾、島田光生³⁾

教養教育院(仮称)設置準備室医療系基盤教育分野¹⁾、大学院医歯薬学研究部医療教育開発センター²⁾、徳島大学病院消化器・移植外科医³⁾

『共通教育過程における留年のリスクファクターに関する研究』

三笠洋明¹⁾、赤池雅史^{1,2)}、西村明儒³⁾

医学部 教育支援センター¹⁾、医療教育学²⁾、法医学³⁾

第80回日本循環器学会学術集会(H27年3月18～20日 仙台)

会長特別企画 日米の医学教育を考える

『Current Status and Issues of Clinical Clerkship in Undergraduate Medical Education in Japan:Analysis of Students' Satisfaction』
赤池雅史¹⁾、大学院医歯薬学研究部医療教育学¹⁾

Kusunose K, Yamada H, Suzukawa R, Hirata Y, Yamao M, Ise T, Yagi S, Akaike M, Sata M.

Effects of Transthoracic Echocardiographic Simulator Training on Performance and Satisfaction in Medical Students.
J Am Soc Echocardiogr doi: 10.1016/j.echo.2015

●用語mini解説●

デブリーフィング

本来は業務終了時に報告と振り返りを行うこと。シミュレーション教育では、セッション後にファシリテーターが学習者の振り返りとディスカッションを促して気づきを得ることで、学習者が実践応用できるより深い学びを修得できるとされている。臨床技能のアクティブラーニング手法として注目されている。

●お知らせ●

●2016 Tokushima Bioscience Retreat

日時：平成28年9月15日(木)～17日(土)

場所：リゾートホテルオリビアン小豆島

担当：保健科学教育部

●第10回「チーム医療入門」蔵本地区1年生合同WS2016

日時：平成28年9月30日(金)13:00～17:00

医療教育開発センターニュースレター Vol.17 2016.3.22

編集・発行 徳島大学大学院医歯薬学研究部 医療教育開発センター
〒770-8503 徳島市蔵本町3丁目18番地の15

TEL:088-633-9104/FAX:088-633-9105
http://www.hbs-edu.jp/index.html